

四面会議システムで行う知識の行動化形成過程の構造化検証に関する基礎的な研究

Some Theoretical Considerations for Assessing the Yonmenkaigi Workshop Method in Terms of Knowledge-to-Action Transformation Process

○羅貞一・岡田憲夫

○Jongil NA, Norio OKADA

This paper addresses some theoretical considerations for assessing the Yonmenkaigi workshop method in terms of knowledge-to-action transformation process. Most of current workshop methods mainly treat the risk awareness of disaster and focus on the individual actions in post disaster. A method called "the Yonmenkaigi system" is a new participatory workshop method for improvement of disaster reduction capacity in a community. Such an implementation plan is required to enable participants from the local community to collaborate together. The method is designed to consist of "SWOT Analysis", "Yonmenkaigi chart", "Debating between Sides", and "Presentation of the action plan". We analyzed knowledge-to-action transformation process of "the Yonmenkaigi system" by using ISM (Interpretive Structural Modeling) in a case study Kyoto City.

1. はじめに

近年、防災教育分野では、地域防災力の向上を目的とする参加型ワークショップがよく行われている。自助・共助に代表される地域コミュニティの助け合いの地域力を日ごろから高めていくために災害の特殊性や参加者の特性を生かした参加型ワークショップは有効である。しかし、既存の参加型ワークショップ手法は、ファシリテーターが設定したシナリオに沿って個人レベルを対象にした災害リスクの認識や災害時の行動判断などへの気づき (risk awareness) を促すリスクコミュニケーションに重点を置いていたため協働的な集団活動の学習体験までには至らなかった。

一方、四面会議システムはもともとコミュニティの小集団によるまちづくりの実践戦略技法として鳥取県智頭町で開発された歴史を持つ。筆者らは本技法を自主防災組織による平常時の地域防災活動計画に適用できることを実フィールドにおいて検証している。すなわち本技法を用いて、コミュニティの減災を目的として参加者が協働作業で災害リスクを認識し、その対策案として行動計画案を自ら生成・補完して完成させる過程の共助の学習体験ができることが明らかになってきている。

2. 四面会議システム

四面会議システムは、「SWOT分析」・「四面会議図」・「ディベート」・「行動計画案図と発表」の四つのアクティビティから全体のプログラムが構成されてい

る。全体の計画内容を四つの行動要素に分割し、これを四面の役割または機能として分担し、後でこれらを統合する点が特徴である。参加者は最初「SWOT分析」を通して、地域コミュニティの現状を診断して、得られた問題意識を踏まえて地域コミュニティに見合う目標を共有する。「四面会議図」では、その目標を達成するために各面ごとに分かれて付箋紙を使って、部分的行動計画案を作成する。また、「ディベート」で他の面の部分的計画案の整合性や実行可能性を相互に検証しあい、併せて全体的な統合的行動計画案を確定する。最後に「行動計画案図と発表」を通して参加者は全体的計画案を採択するとともに、その協働的な実践を宣言する。

3. 四面会議システムの知識の行動化形成過程

本研究では、特に四面会議システムの「知識の行動化過程」の構造特性化について述べる。参加者の協働作業による「四面会議図」と「ディベート」のアクティビティから発現される「個別行動計画案の変容と構造化」を四面会議では「知識の行動化形成過程」と定義している。本研究では、ISM 法的思考を用いて個別の行動計画案の変容が全体の行動計画構造化を再構成することを示して、四面会議システムの知識の行動化形成過程を評価する試みを紹介する。実例として、2008年1月26日に京都市中京区の朱雀第八学区の自主防災会を対象に行われた「安全・安心マップづくり」を取り上げる。